



# 02. リクルート「サンカク」× 秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点 ふるさと副業・兼業人材活用フォーラム2024

2月16日、あきた芸術劇場ミルハス小ホールで「ふるさと副業・兼業人材活用フォーラム2024」が開催された。会場には52名、オンラインでは65名が参加。「ふるさと副業・兼業」とは、地方企業と都市部のビジネスパーソンを繋ぐ、国も推奨する新たなマッチングの形だ。

第一部では副業活用のポイント「成功はあっても、失敗はない!」と題した株式会社リクルートの古賀敏幹氏による基調講演が行われた。秋田県内の企業で副業プロ人材を活用している件数は東北では第1位、全国でも第3位となっており、副業・兼業人材の有効性や、活用する際のポイントについて説明、参加者も真剣な表情で聞き入っていた。

第二部では、株式会社秋田魁新報社社会部長論説委員である小松嘉和氏がファシリテーターを務め、パネリストとして有限会社ぬまくらの代表・沼倉克彦氏、ご子息の専務取締役・佑亮氏、常務取締役・彬人氏の3名に加え、株式会社リクルートの狩野美鈴氏が登壇した。題して「副業人材を



活用した先代と息子達の挑戦」。事業承継といえば、そのまま事業を引き継ぐイメージだが、息子たちがビジネスをアップデートしながら、事業を発展的に継いでいくことになった経緯、そこに副業・兼業人材をどう活用したのかなどを引き出す内容となった。コーディネーターとして有限会社ぬまくらのサポートを行った狩野氏からの振り返りなども交え、紹介した。副業・兼業人材の活用の幅は広く、企業の課題ごとに共に伴走支援することが可能である、という一例をわかりやすく紹介したパネルディスカッションとなった。



開会あいさつ 妹尾理事長



## それぞれのコメント



代表取締役社長  
沼倉 克彦 氏

自分が始めたTシャツプリントなどのプリント事業は、このままでは行き詰まると感じていました。息子たちが家業を継いでくれることになったが、コロナによって売上が半分以下になった。そんな折、副業・兼業人材のことを知り、息子たちにも提案したのが活用のきっかけとなりました。私自身の期待値が高過ぎたこともあり、初回は期待外れだったと感じたのですが、私自身がやってはいけないと言われる使い方をしようとしていただけでした。息子たちが悩み、外部人材の方に相談し進めていった。それを私がサポートする、という活用の仕方が結果として良かったと感じています。皆さんにも、ぜひ活用していただきたいです。



専務取締役  
沼倉 佑亮 氏

事業をどう進めていこうか考えたときに、足りない部分や助けてもらいたい部分がいくつかある。どう進めようか模索していた時期だったので、外部人材の方に相談することで、突破できるのではという期待を持ちました。今回は狩野さんが私たちがどういう事業の方向に行きたいのかを聞いた上で、外部人材の募集について設計してくださいました。PRIに特化した方を1名、プロジェクトマネジメントの方を1名、ブランディングに特化した方を1名という形になりました。まだ私たちも、一回目の活用が終了したばかりですが、まずはやってみることをおすすめしたいと思います。やってみてわかることがあります。実際、活用したことで「課題を発見する」というところから伴走していただいたことがとても大きかったと感じています。



常務取締役  
沼倉 彬人 氏

外部人材の方たちとの協業によって、ブランディングを進めるというよりは、そのものの考え方を整理して、さまざまな方と関わりながらプロジェクトを進めるときのプロジェクトマネジメントの考え方について助言をいただくことができました。結果的には、業務改善という形でお手伝いいただくことができました。外部人材を活用するときには、営業や企画などの具体的業務をお願いするのか。あるいは、改善することに協力してもらおうのかを明確に決める必要があります。前者は明確なゴールがありますが、後者は長い目で見て伴走が必要です。一番良かったのは、外部の方が真剣に向き合い、耳の痛いことを助言してくれたことです。